

「おでかけなんじい」の運行・利用状況について

平成31年2月

南 城 市

1 「おでかけなんじい」の現在の運行形態

- 平成 29 年 10 月より 20 時便が廃止されており、平成 30 年度は、8 時台～19 時台の便を運行しています。

表 1.平成 30 年度の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	内容
名称	おでかけなんじい
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域及び沖縄県立向陽高等学校（八重瀬町字港川 150 番地）
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）
利用料金	一人一律、1 回 300 円（未就学児は無料） 12 枚綴り 3,000 円の回数券を発行
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）
運行曜日	平日・休日（土日祝）の毎日 ※12/31～1/3 は除く
運行時間帯・運行便数	●8～20 時（8 時台～19 時台の 1 時間ごとに運行） ●平日 9 時台～18 時台、土曜日の 11～16 時台は 3 台/時運行 ●その他の時間帯は 2 台/時運行
運行車両台数	最大 3 台（10 人乗り車両）
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の 30 分前までに電話にて予約。ただし、8 時台は前日までの予約が必要。
運営体制	運行業務及びオペレート業務は、地方自治法に基づく随意契約で選定。

表 2.平成 30 年度の「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8 時	9 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

表 3.増便・減便等に関する基準

項目	基準
減便	3 台→2 台 2.0 人/台未満
運行取り止め	0.5 人/台未満
増便	2 台→3 台 3.5 人/台以上
	3 台→4 台 4.0 人/台以上

※上記基準にしたがい、1 年毎に見直しを行う。

※運行エリアが広いため、1 台/時のみでの運行は行わない。

※時間帯別の運行台数に凸凹が生じないように柔軟に運用する。

2 「おでかけなんじい」の運行・利用状況

2.1 運行状況

(1) 運行便数

●一日当たりの運行便数は安定しており、平成30年度（1月まで）は概ね31便/日で推移しています。

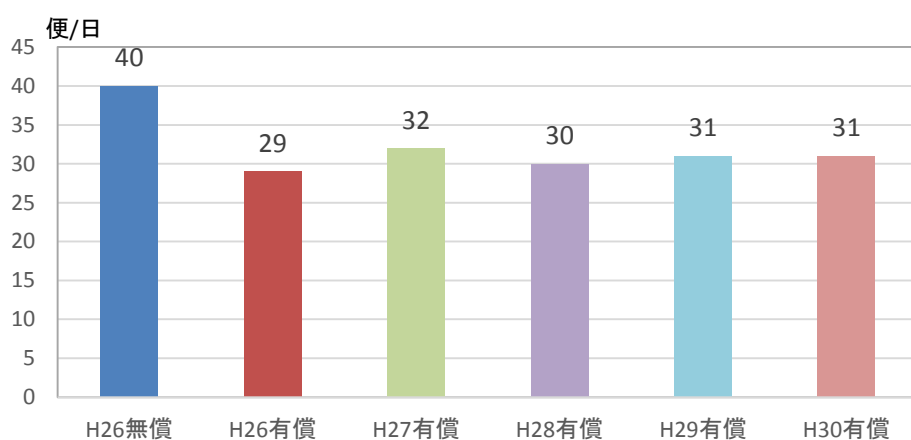


図-1.「おでかけなんじい」の運行便数の推移(年度別)

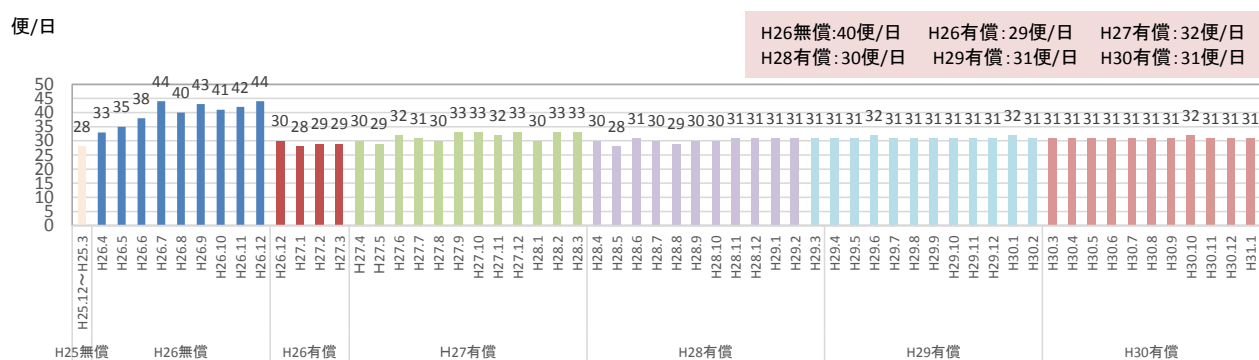


図-2.「おでかけなんじい」の運行便数の推移(実績ベース)

(2) 平均乗車人員

●平成 30 年度（1 月まで）における平均乗車人員は 2.5～3.0 人/便前後で推移しています。

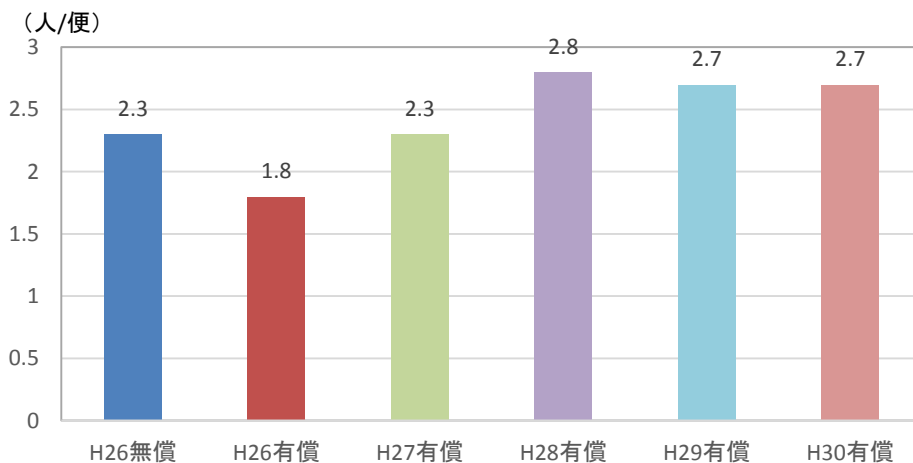


図-3.「おでけなんじい」の平均乗車人員の推移(年度別)

(人/便)

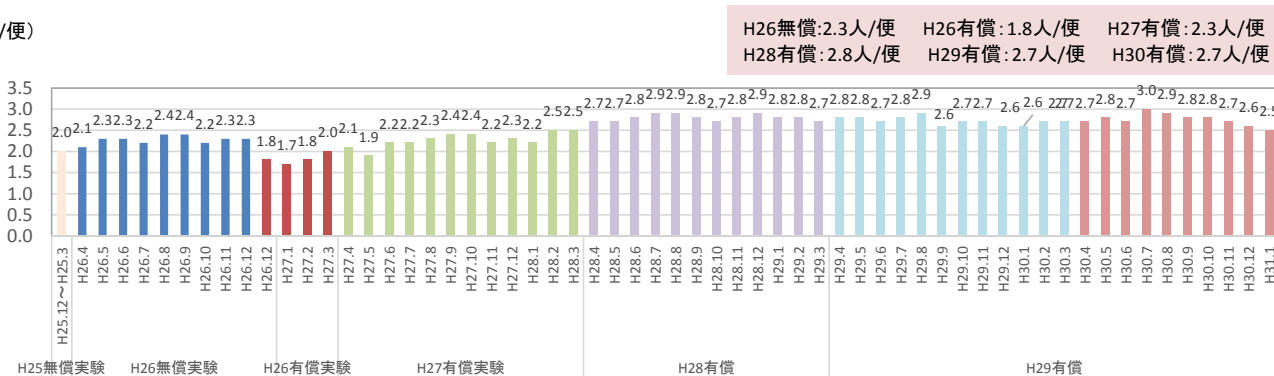


図-4.「おでけなんじい」の平均乗車人員の推移

2.2 登録状況

- 「おでかけなんじい」の登録者数は平成31年2月で5,259人と、1年前の平成30年2月の4,731人から1年間で528人増加しています。

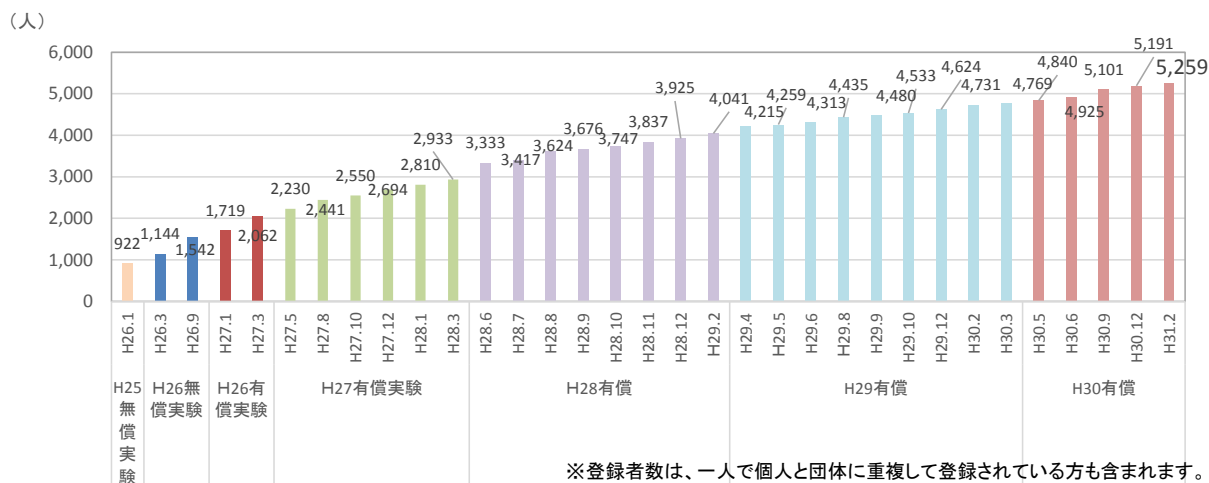


図-5.「おでかけなんじい」の登録者数の推移

2.3 利用状況

(1) 利用者数

- 「おでかけなんじい」の年間の利用者数は約 30,000 人であり、今年度は 1 月末時点の利用者数が 25,217 人であることから、今年度も概ね 30,000 人前後の利用が見込まれます。
- 平成 30 年度は 1 月までで観光客も含めて **2,809 人（実利用者）**の方が利用しました。
- 平成 30 年度でもっとも多く利用した方は、1 月までに 379 回利用しています。
- 利用は特定の方に集中しており、上位 29 人（実利用者 2,809 人の上位 1.0%）で全利用の 24.4%を占めています。
- 同様に、上位 98 人（実利用者 2,809 人の上位 3.5%）で全利用の 48.9%と約半分を、上位 400 人（実利用者 2,809 人の上位 14.2%）で全利用の約 8 割を占めています。
- 実利用者 2,809 人の利用頻度をみてみると、「月に 1 回以下」が 85.8%と 9 割近くを占め、一方で「週に 4 回以上」は人数で占める割合は 1.0%に過ぎませんが、利用回数の 24.4%を占めており、特定の利用者が頻繁に利用することで全体の利用回数が多くなっていることがわかります。

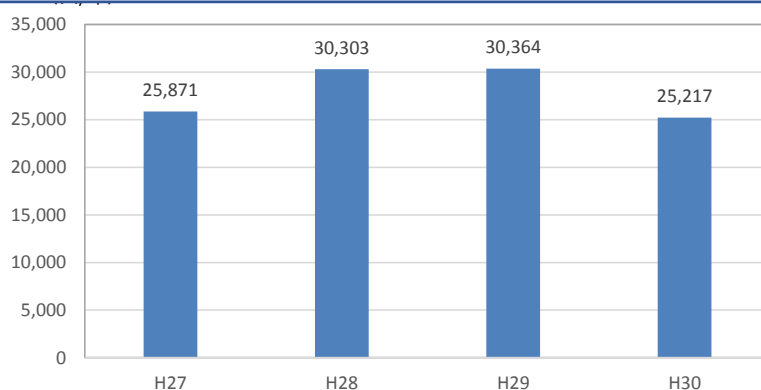


図-6.「おでかけなんじい」の登録者数の推移(H30 は 1 月まで)

表 1.実利用者の利用頻度別の人数と利用者数

区分	10ヶ月間の 利用回数	人数		利用回数	
		人数	構成比	利用回数	構成比
月に1回以下	1~10	2,409	85.8%	5,286	21.2%
月に1~2回程度	11~20	147	5.2%	2,142	8.6%
月に2~3回	21~30	68	2.4%	1,669	6.7%
月に3~4回	31~40	44	1.6%	1,542	6.2%
週に1回程度	41~60	43	1.5%	2,090	8.4%
週に2回程度	61~90	39	1.4%	2,901	11.7%
週に3回程度	91~130	30	1.1%	3,181	12.8%
週に4回以上	131~	29	1.0%	6,066	24.4%
小計		2,809	100.0%	24,877	100.0%
不明				340	
計				25,217	

(2) 1日当たりの利用者数の推移

- 1日当たりの平均利用者数は、平成30年度（1月まで）の利用者数は84.1人/日となっています。
- 有償化以降、平成28年度までは、年々利用者数が増加してきましたが、平成28年度以降は概ね横ばいで推移しており、後述するように予約の断り件数も増えてきていることから、輸送力は、ほぼ限界に達していると考えられます。

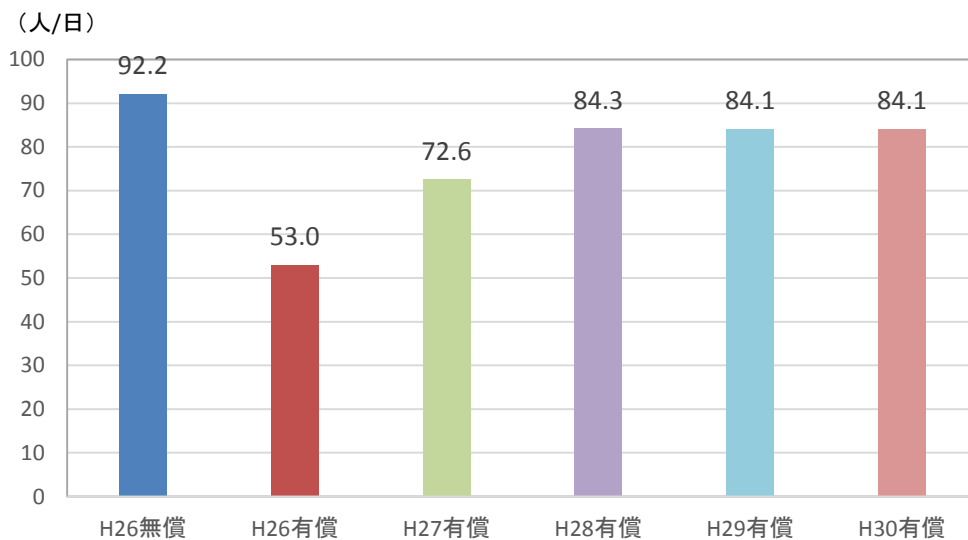


図-7.「おでかけなんじい」の利用者数の推移(年度別)

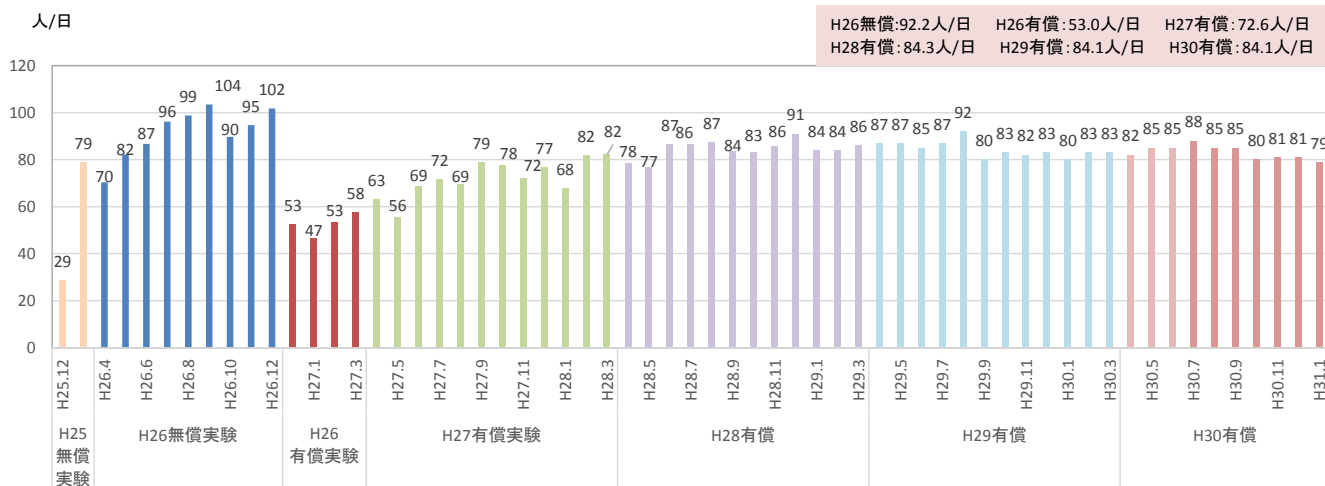


図-8.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

(3) 曜日別の利用状況

●平成 30 年度（1 月まで）の利用状況をみると、平日が平成 29 年度の 94.2 人/日から 97.6 人/日と増加している一方で、土曜日、日祝日は、平成 29 年より減少しており、利用者が多い平日と利用が少ない土曜日、日祝日の差が拡大しています。

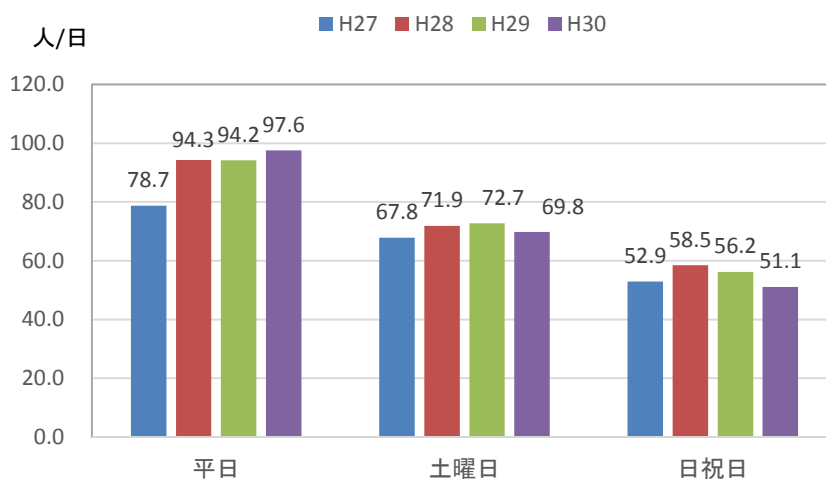


図-9.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数(H31.1 まで)

2.4 利用者の属性

(1) 性別の構成

- 平成 30 年度（1 月まで）における男女比は、23：77 と利用者の 8 割近くを女性が占めています。
- 平成 29 年度に比べると、女性の割合がさらに 3 ポイント高くなっています。

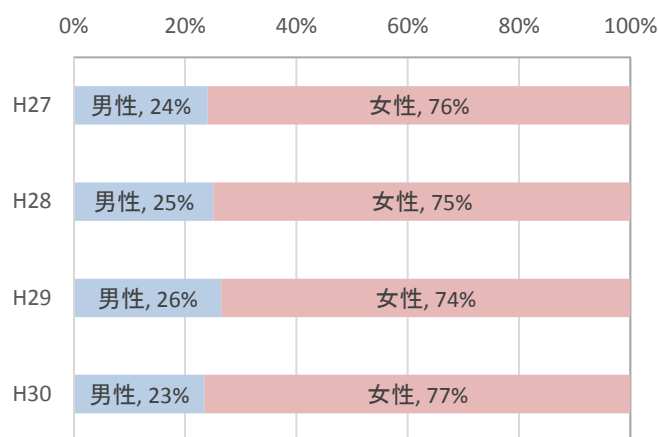


図-10.利用者の性別の推移(H31.1 まで)

(2) 年齢構成

- 平成 30 年度（H31.1 まで）における利用者の年齢構成は、「75～79 歳」が 17%、「80～84 歳」が 14%と高齢者の利用が多く、75 歳以上が全体の 37%を占めています。
- 平成 27 年度からの推移をみてみると、19 歳以下の割合が 7%から 15%に増加する一方で、65 歳以上の割合が年々低下しており、平成 27 年度の 74%から、平成 30 年度は 62%と 12 ポイント低下しています。（H27.11 より向陽高校への乗り入れ開始）

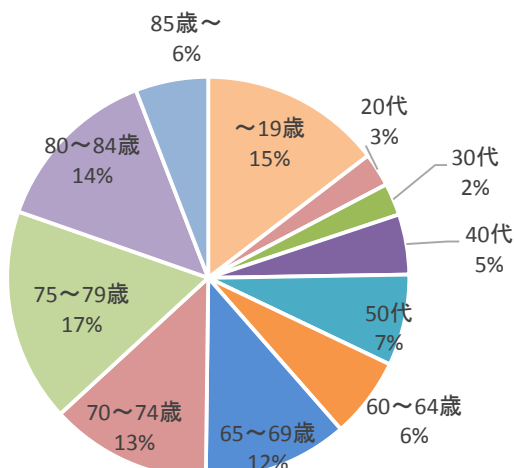


図-11.利用者の年代(平成 30 年度)

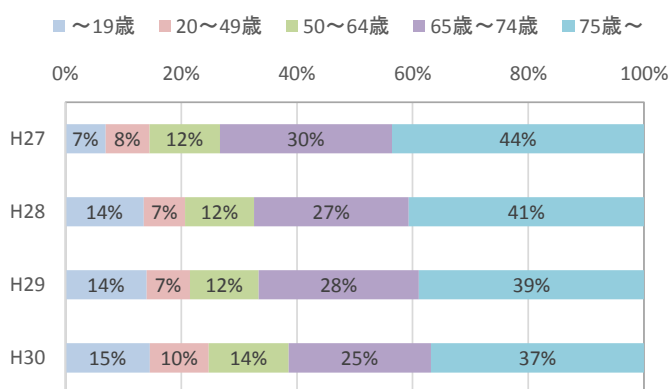


図-12.利用者の年代の推移

(3) 市民と観光客

- 平成 30 年度における（H31.1 まで）市民と観光客の構成比は、市民 91%、観光客 9%となっています。
- 市民は平成 27 年度から平成 28 年度にかけ 12.4 人/日と大きく増加、以降は 78.0 人/日前後で推移しています。
- 観光客は昨年度 5.4 人/日と前々年度より減少しましたが、今年度は 7.6 人/日と増加してきています。

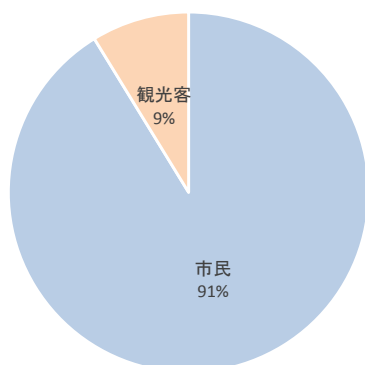


図-13.市民と観光客の構成比

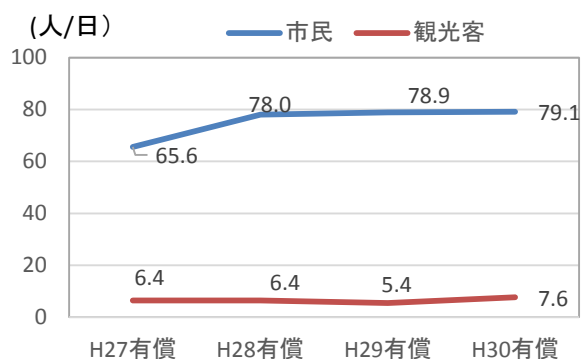


図-14.市民と観光客の利用者数の推移

2.5 予約の断り状況

- 平成 30 年度（1 月まで）における予約の断り件数は、月ごとの変動傾向が大きく、1 月の 72 件/月に対し、7 月は 167 件/月と 1 月の 2.3 倍も発生しています。
- 4～1 月の 10 ヶ月間で予約の断りが 1,165 件（1 日あたり 4.0 件、1 便あたり 0.13 件）あり、62%にあたる 684 件が運営者都合で断っています。
- 運営者側都合の断り理由は、「満員」が 61%、「移動距離が長い」が 37%とこの 2 つにほぼ二分されています。
- 1 月までに 3,372 件と多くのキャンセルも生じており、1 日当たりのキャンセル件数は最も多い 7 月で 13.4 件/日と 10 件を超えています。

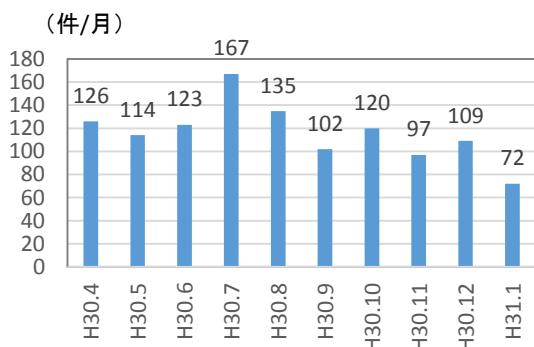


図-15.予約の断り状況の推移

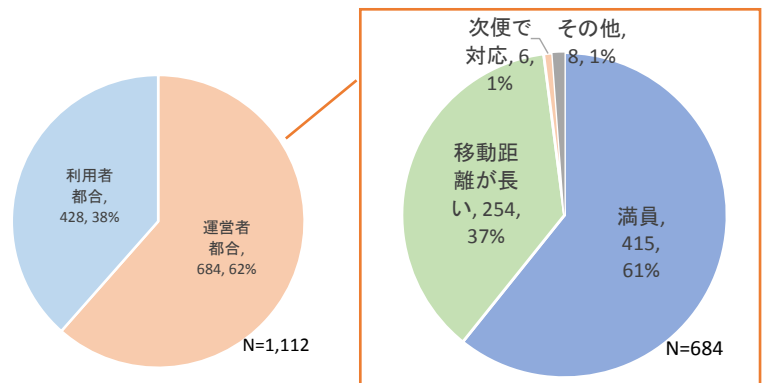


図-16.予約の断りの内訳

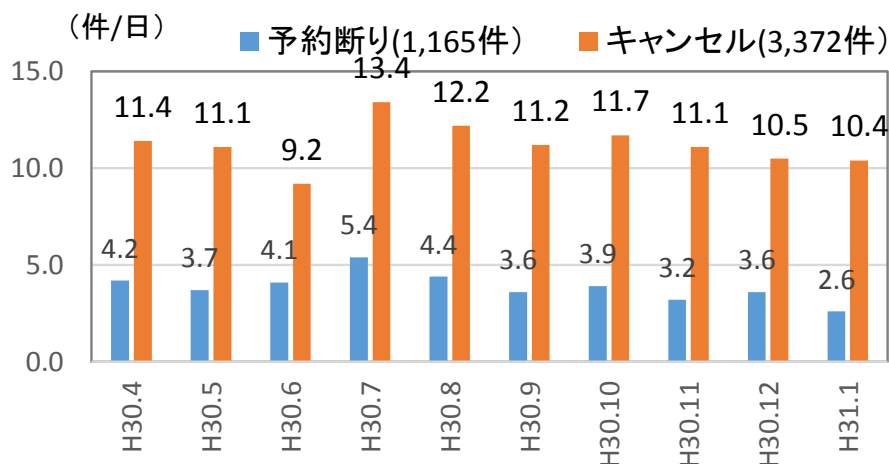


図-17.予約の断り件数とキャンセル数の推移

2.6 収支

- 平成 30 年度における収入（見込み）は 20,700 千円であり、内訳は運賃収入が 12,000 千円と 6 割、補助金が 8,700 千円と 4 割を占めています。補助金は、これまで同様に、国の地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統補助）を活用しています。
- 支出（見込み）は、49,800 千円であり、運行経費が 35,300 千円と約 7 割を占め、その他には運営経費（オペレータ、システム運用等）が 9,600 千円、その他が 4,900 千円となっています。
- 平成 30 年度における収支の見込みは、29,100 千円の赤字、収支率は 41%となっています。
- 収入と支出の運行経費及び運営経費支出は平成 29 年度とほぼ同じですが、今年度はその他で機器の更新を行っているため、その他の支出が多くなっています。

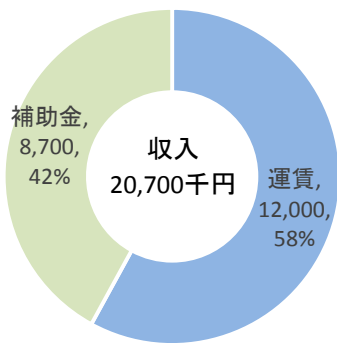


図-18.平成 30 年度における収入の内訳

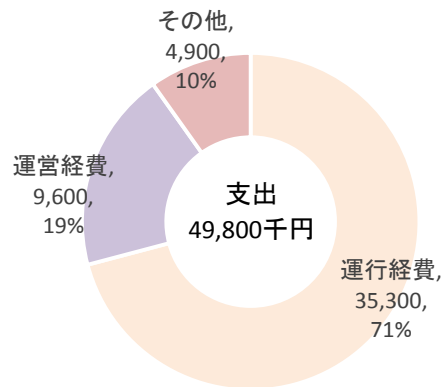


図-19.平成 30 年度における支出の内訳

■ 運賃 ■ 補助金 ■ 運行経費 ■ 運営経費 ■ その他
(千円/年)

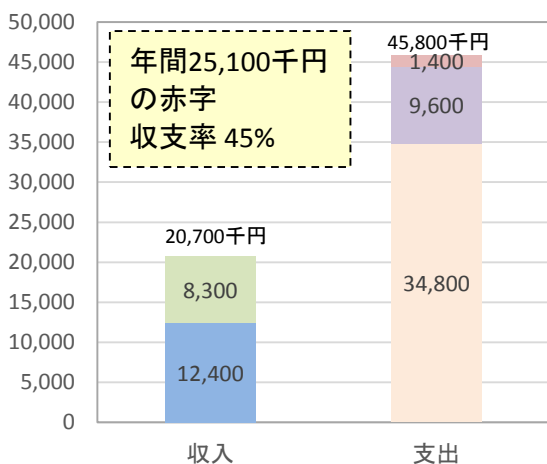


図-20.平成 29 年度における収支

■ 運賃 ■ 補助金 ■ 運行経費 ■ 運営経費 ■ その他
(千円/年)

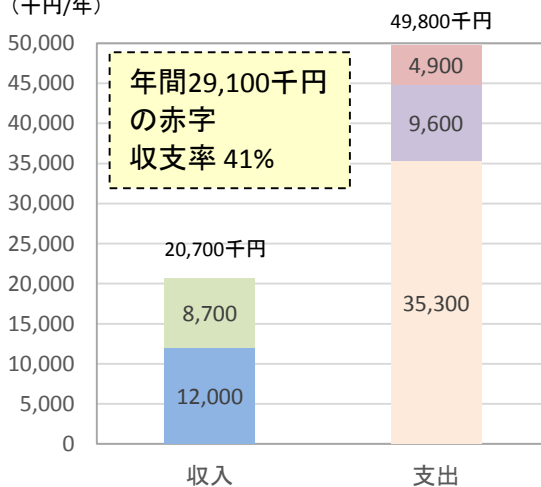


図-21.平成 30 年度における収支